

震災関連記事のみの抜粋です

中外雑記

臨黄

雲納が作務で復興手伝い

●**妙心寺派** 祥福寺専門道場は高台にあるため、地震の被害は比較的に軽かった。地震五日後には、雲水の作務で屋根瓦なども補修され、境内も掃き清められて、山門が倒壊していることを除けば、震災の混乱の跡はほとんどないようにみえた。しかし、子細にながめると地震の爪痕は本堂の壁に大きな亀裂として残っている

▽僧堂は十五日から接心中だった。しかし、地震直後とあって、午前中は通常の日課だが、午後は専ら作務に充てられた。役位の雲納によれば、祥福寺境内の整理だけでなく、市内の一派寺院や近所の家々の修理、片付けの手伝いにも出向いているという。「檀家さんの家が崩れ家族が三人生き埋めになっているので、雲水が救助の手伝いに行きました。残念ながら、みんな既に亡くなっていましたが」。見舞いの差し入れも続々届いているが、「頂いたものは近くの避難所などに配ったり、近くの寺へ手伝いの作務に行くとき持参しています」とのこと

▽「五年前に掘った井戸が役立ちました」と語るのは管応峰祥龍寺住職。同寺のある灘区篠原北町は都賀川上流の高台。下流の阪神本線以南、新在家町辺りでは家屋が軒並み倒壊し、爆撃を受けたあとの廃墟のような惨状を呈しているのに対し、直線距離で僅か二キロと離れていない同寺周辺はほとんど無傷に近い。だがむろん地震被害と無縁ではなく、断水状態はずっと続いている

▽地域住民にとっても生活水の確保が悩みの種。祥龍寺が井戸を一般開放していることが大きな救いとなっている。「井戸は深さ一〇〇メートルで、水は豊富に出る。朝六時から夜九時まで開放していて、水を汲みに来る人の姿は絶えません、まだまだ大丈夫ですよ」と菅住職は語る。事実、井戸の前にはポリタンク等の容器を持った人が長蛇の列。門前には乗用車も数台並んでいて、かなり遠くから来た人もいたようだった＝写真【写真は省略】

▽同寺は十八日から二十日まで遺体安置所となっていて、約四十体が安置されていた。かなり傷ついた遺体も多く、搬出された後、畳を裏返さねばならなかったという。

震災復興祈願節分会に

●**天竜寺派** 兵庫県南部地震では本派の二カ寺にも被害があったが、その程度は比較的軽微だった。神戸市の徳光院（橋本恭堂住職）では開山堂の屋根瓦が落ち、墓石も倒壊した。大阪府池田市の松雲寺（安永祖堂住職）は庫裡の屋根瓦がずれ、壁も倒れた

▽天竜寺では二十三日から被災者救援の募金箱を二カ所の拝観入り口に設置した。また今年の節分会は震災復興祈願節分会とし、恒例の豆蒔きと狂言を自粛。寄せられた浄財をまとめて、募金とともに然るべき公的機関に寄託することになった。

浄土

二千万円目標に募金活動

●**浄土宗** 兵庫県南部地震では浄土宗寺院も本堂や庫裡の全壊、半倒壊の多かった中、死亡者は奇跡的ともいえるほど少なかった。灘組の伊藤省三西福寺住職が一人犠牲となった。寺族は無事だった。子息は同日、佛教大学の入学願書提出日だったという。伊藤氏の遺体は地域の遺体安置所に、多くの遺体とともに安置されたが、遺体には五条袈裟が掛けられ、一目で伊藤氏の遺体だと分かった。同じ灘組の小栗賢亮光明寺住職の手で掛けられたという▽地震で家を奪われた被災者にやすらぎの場を、と総本山知恩院に京都府教育委員会から二十日、被災者を収容することのできる施設の提供について打診があった。知恩院ではこれに応え、和順会館を開放したいと、受け入れ準備を整えている

▽大阪教区（藤野立恭教区長）では、藤野教区長が大阪教区の全寺院に対して見舞状を郵送。また今後の地震被害に対する対応として、被災者を可能な限り各寺院に収容するほか、二千万円を目標に募金活動を実施したいとしている。藤野教区長は「近畿の各教区長と連絡を取り合って情報交換しています。“兵庫を助けよう”を合言葉に近畿が一丸となって救援活動を行なっている」と語っている

▽近畿地方教化センター（藤野立恭センター長）の檀信徒大会・おてつぎ運動推進大会が兵庫教区の当番で二月二十四日、神戸市中央区の神戸文化ホールで予定されているが、対応を協議している同教化センターでは、開催予定地の神戸が地震による被害が大きいために、中止となる公算が大きいと話している

▽二十五日に東京で開かれる浄光会に合わせ、二十四日に箱根で研修会を予定していたA S Kの会（宗門の明日を考える）は、兵庫県南部地震への協力、対応を行なうべく、研修会の延期を決めた。

東京でも一千万円目標に

▽浄土宗東京教区役職者新年互礼会が二十日、東京・芝の大本山増上寺大広間で開催され、席上、大室了皓東京教区長は、兵庫県南部地震の被災寺院を対象とした義捐金を東京教区教務所、浄土宗東京教区寺庭婦人会、浄土宗東京教区青年会の三団体合同で募ることを発表、出席した教区役職者に協力をよびかけた。目標額は一千万円。集まった義捐金は兵庫教区教務所(貴田康住教区長、西宮市・西蓮寺内)が本堂全壊で拠点として機能しないため、近畿ブロック地方教化センターの藤野立恭委員長を通じて兵庫教区の被災地に送られる予定。同日、教区内全寺院（約四百三十カ寺）に募金の依頼状を発送した。集金方法は、東京浄青のメンバーが手分けして各寺院に集金にまわる方式をとるといふ

▽大室東京教区長は挨拶の中で関西大震災の被害について「今回の地震は大都市の直下に震源があったために起きた大災害というふうに考えられます。これが東京のような所で起きた場合には、さらに大きな被害が予想されます。大都会の教化活動を推進していく上には、地方教区と違ったいろいろな条件があると思いますが、これは東京がまず先鞭をつけて取り組んでいかなければならない大きな責任をもっていると思います」と述べるとともに、「私が感心したことは、アメリカの友人から電話がございまして“日本は大したものだね。アメリカだったら暴動が起きるはずだが、日本はほとんどない。素晴らしいことだ”と話していました。私自身も地震報道をテレビで見たが、海外の災害報道のような泣きわめく姿があまり見られない。密かに涙を流す姿はあったが…。日本人の精神構造が他の国とは違っているんだなあと感心しました。その心をつくったものは何か、これは仏教の教えが日本人の精神構造の中に大きく根付いているのではなかろうかと、しみじみ思った」と述べた

▽また兵庫県南部地震の被災者を救援しようと、関東の浄土宗青年会でも救援活動の輪が広がっている。浄土宗東京教区青年会（西城宗隆会長）のメンバー三十五人が二十日、東京・増上寺周辺（御成門～浜松町間）で約二時間、また浄土宗千葉教区青年会（山本恵司会長）でも同じく二十日、JR船橋駅前で、それぞれ街頭募金を行なった。寄せられた七十五万五千円と二十五万八千円の浄財はいずれも日本赤十字社を通じて被災地へ送られた

▽浄土宗総合研究所の主導で開設しているパソコン通信「浄土宗ネットワーク」では、地震で被害を受けた浄土寺院の被害状況に関する情報を提供している。

神社界

神戸のシンボル復興を

●生田神社（神戸市中央区下山手通）の加藤隆久宮司＝写真【写真は省略】＝は二十二日、「使命感を持って立派に拝殿を再建する」と神社復興に向けての決意を力強く語った。拝殿が倒壊した同神社だが、「神戸のシンボルであり、神戸市民の氏神である生田神社の復興を神戸再生のシンボルにしたい」と意欲は満々である。同神社では、拝殿は崩れ落ちたものの、本殿や他の建物に被害が及ばないように「うまく壊れた」のが不幸中の幸いだった。また、コンクリート造りの生田会館は無事に残り、本殿では地震後に地震奉告祭も執り行なわれた

▽電気・ガス・水道の不便は続いたが、飲料水用としては生田会館屋上には大きな水タンクがあり、トイレの水として境内の池の水を利用するなど工夫をこらした。また生田神社の被災を知った全国の崇敬者、神社関係者などからの見舞い、さし入れも多く、二十二日には熱田神宮から大原和生氏ら五人が給水車で駆けつけた。熱田神宮隊は寝袋や自炊道具持参で生田、西宮、長田、湊川などの各神社をまわり、救援活動に活躍した

▽比較的被害が少なかったとされる西宮市の廣田神社（中山隆宮司）でも、祭舎、手水舎などが倒れ、拝殿は柱が裂けて傾いた。神社では「地震のことは平安時代の記録に残っているが、近年は台風対策ばかりに気をとられており、今回改めて地震の恐ろしさを知らされた。社殿の復興は時がくれば可能であろうが、氏子総代の一人も亡くなっており、氏子の中にも多くの人的被害が出たようで、むしろこちらの方が心配です」と不安を語る。復興にあたっては「拝殿は今の建物を残しながら修理するか、解体して修理するか」という難しい決断を迫られている。

天台

各地で自主的な救援の動き

●天台宗 十七日の兵庫県南部地震の災害救援活動が全国各地や各団体で自主的に進められている。二十一日から二十五日まで行なわれている延暦寺の寒行托鉢は、今回の地震の救援募金として二十四日現在、例年より募金の成果を上げている。また、延暦寺一山の若手住職や叡山学院生は、二十一、二十二の両日、被害を受けた寺院を訪れ、炊き出しをして被害者の人々に配るなどの救援活動を行なった。この奉仕活動は、今後も近隣の仏青にも呼びかけて続けられる。また、仏青連盟の依頼を受けて、滋賀教区の仏青や、岡山教区からも被災地へ物資が送り届けられている。九州西教区でも、対策本部を設けて救援募金を集めたり、要請があればすぐに人を出す態勢。東海教区でも募金活動を実施、京都教区では、二十三日から三日間、救援募金の托鉢を実施。東京寛永寺境内でも救援募金の托鉢を行なう。

救援本部と兵庫教区連携で

▽兵庫教区（上中善信宗務所長）では災害救援本部（上中本部長）を設置、宗務庁に設置された「兵庫県南部地震災害特別救援本部」（本部長＝杉谷義純総長、副本部長＝小林隆彰延暦寺執行）との連携で救援が進められている。兵庫教区災害救援本部では緊急の対策会議を二十一日、加西市の普光寺（上中善信住職）で開き、今後の活動方針を打ち出した。今後の活動方針の三つの原則は、1 被災した寺院を救済 2 寺院を通じて檀家信徒近隣の人々救済 3 被災した人々全体に対して救済－ということ。対策会議には、特別救援本部から山田俊和総務部長、山田能裕社会部長、真嶋康祐延暦寺副執行が出席し、救援態勢について報告、教区への対応について激励した

▽西区の潮海寺（樫木良幸住職）には救援物資が到着し、同寺で集計や、配送を行なっている。また、兵庫区の能福寺（雲井世雄住職）、善光寺（高坂盛暢住職、会下山町）、理教院（勝山忠圓住職）妙光院へも救援物資が送られている

▽二十三日に帰庁した対策委員本部長の杉谷義純宗務総長と副本部長の小林隆彰執行は、二十四日早朝、救援物資

を積んだワゴン車二台で物資とともに、災害地の寺院を見舞った。

曹洞

緊急支援に動く

●兵庫県南部地震への対応は、関西に本山・宗務所のある教団が一足早かった。曹洞宗の宗務庁は二十日に大阪へ総務部福祉課長の石田課長と栗原書記が入り、二十一日に兵庫県宗務所第一教区に岡山側から教学部学事課の中村課長と小林書記、大阪から総務部の石田課長と栗原書記が入って全寺院を回り、同日、第二教区へ有田人事部長、宮崎・和賀の両書記が入り、それぞれ見舞いの金品を渡し、現状把握につとめた

▽本紙が独自に取材した被災寺院の状況については、別掲のフォト特報で報じた

▽中央区国香通の東福寺（圓通幸温住職）は塀が崩れ、六本柱の鐘楼の足が外れて倒れる寸前の状態にあり、また総櫓の見事な本堂も柱が傾き、櫓の一枚板の板壁が破れ、襖や欄間の彫刻が外れるなどしたが、幸い書院は被害が少なく、他県からの救援物資の中継地となって地域住民への物資配給に一役買っている

▽敏速な行動で圓通住職を驚かせたのは、全国曹洞宗青年会の会長である吉川俊雄氏。山口県から大量の救援物資を車に積んで届け、東福寺を拠点にして各地へ物資を運んだ。運搬用の車は県知事の許可証をとって交通規制もフリーパスで通過してきた手際のよさ。圓通住職は運ばれた食料品や飲料水、野菜、米、ビニールシートなどを近隣住民に配った。大きなリュックを背負い、金剛杖をついて東福寺に現われた外国人僧もいた。尋ねると、聖護院で得度したというフランス人。京都から甲子園口まで電車に来て、そこから歩いて寺を巡り、水などを配って見舞っていたという

▽地震による火災で被害甚大の長田区にある満福寺（志保見文彦住職）は状況が全くつかめず、全焼・焼死などさまざまな情報が飛び交ったが、兄である兵庫区の八王寺住職志保見道元氏がようやく通じた電話で得た情報によると、鐘楼がつぶれ、山門はねじれて倒壊。塀は崩れ、本堂の屋根瓦が崩れ落ちた。寺のすぐ後ろまで火の手が迫り、辛うじて焼失を免れたという。寺の背後は焼け野原になっている

▽「参禅道場の会」の吉岡博道事務局長から「兵庫地震には目が覚めた思いでした。八王寺、満福寺、禅昌寺、向栄寺、宝塚・宝泉寺等、本堂、庫裡、倒壊のようです。いろいろ救援方法があるでしょうが、私たち羅漢会、三八会、擔雪会、参禅道場の会は、さっそく支援要請の書面を出し、今月末までに援助金を取りまとめ、二月初めまでには、私が代表で神戸に単身乗り込み、志保見兄に手渡す所存です。情報が不明ではっきりしませんが、周辺寺院から聞き出し、即刻手を打ちました」の報。「参禅道場の会」の援助金受付窓口は、振替口

座＝００１４０－６－４５６３５、口座名＝曹洞宗参禅道場の会。

法華

神戸市東灘区で住職死亡

●日蓮宗 神戸市を中心に、西宮市、尼崎市などで多くの宗門寺院が被災したが、現在までに判明した被害状況は次の通りである

▽まず神戸市東灘区の妙見寺で本堂・庫裡が全壊し、その下敷きとなって岩田随教住職が圧死した。神戸市兵庫区の妙徳寺は、傾斜地の上の方から民家が覆いかぶさるようになり崩れてきたために全壊、福田淳弘住職は軽傷ですんだものの、住職夫人が骨盤骨折で近くの川崎病院に入院中。妙徳寺のすぐ下には神戸電鉄有馬線（湊川－長田間）が走っており、かろうじて屋根だけが残った本堂の残骸が線路をふさいだ状態になっている。同路線の復興にはこの残骸の撤去が急務となっているだけに、寺宝や貴重品を含めて何一つ持ち出せなかった福田住職は門前に「ここを取り壊す時は必ず連絡して下さい」という張り紙を出し、自分のけがを押して入院中の夫人に付き添っているとい

う。また神戸市兵庫区の法蓮寺（内藤慈宣住職）は本堂が倒壊したほか、庫裡も屋根・天井に穴があき、内部はめちゃめちゃで使いものにならなくなってしまった。その他、墓石は全部倒れ、塀も崩れた。境内には二本の亀裂が走っており、現在は崩壊せずにすんだ奥の六畳二間で生活している。さらに神戸市兵庫区の行守寺（清水教信住職）も本堂・庫裡が半壊した。半壊といっても、さらに崩れる恐れがあるため、中に入ることはできず、とても住める状態ではない。現在は車のガレージに避難し、たった一本通じていた境内の水銀灯用のコンセントから電気を引いて、ホットカーペットで暖をとっている。清水住職は「ここは鳥原貯水池の畔にあり、近くに市の水道局事務所もあるためか、鳥原貯水池を一周する『水と森の回遊路』の亀ノ甲広場という水場が使えたので、水だけは何とかりましたが、どこから手をつけていいかわからず、まだ宗務所にも被害届さえ出していないという状態です」と話していた。このほか西宮市の浄願寺（宮田智妙住職）も本堂・鐘楼を含む諸堂が全壊し、残ったのは鉄筋コンクリート造りの納骨堂だけ。また尼崎市の長遠寺（池田博隆住職）も本堂が半壊の状態。

義援金を呼びかけ

●**顕本法華宗** 十七日の兵庫県南部地震で、神戸市須磨区の立正寺（中山浄敬住職）が被災した。住職・寺族は無事だった。建物は瓦が落ちるなどしたが、外観上は大きな被害はなかったもよう。ただし今後も使用が可能かどうかは専門家の判定が必要とのこと。宗門では各寺院に立正寺および被災者への義援金を呼びかけている。

真宗

「なんでこんなことに...」

●**本願寺派** 今回の兵庫県南部地震では、関東大震災クラスの地震でも大丈夫と日本がその耐震性を世界に誇った阪神高速道路が橋脚の根元からポッキリと折れるように倒壊したが、この現場から少し南にある神戸市灘区新在家の一带は古い木造家屋が立ち並ぶ住宅街で震災による被害も甚大だった地区の一つ。同地区には神戸東組の妙善寺（上田泰朗住職）があるが、同寺は本堂や庫裡、山門などがほぼ全壊の状況で、上田住職の長女、信子さん（二七）が犠牲になり、住職一家らは寺から避難している。倒壊した家屋の瓦礫が道を塞ぐ中をかき分けるように同寺に近づくと、建物のほんの一部を残して本堂や庫裡など境内の全ての建物は地面に叩きつけられたように瓦礫の山と化していた。周囲の道路には「真宗宗歌」と黒いマジックで書かれた神戸市役所の封筒や「しんらんさま」の歌の歌詞を記した紙などが散乱しており、辛うじて残った建物の残骸からは座布団が数枚はみ出している。これらの備品の数々が再び本堂で門信徒らを迎える日はいつ来るのだろうか。崩れた山門の間から境内の様子を窺っていると近所のおばあさんが「なにをしているの」と注意、肩にぶら下げたカメラを見て報道関係と分かったのか「このお寺は誰もいないわよ。新聞にも出ていたようにお嬢さんが亡くなり、ご家族は避難されています」と振るえる声で言い残して足早に去って行った

▽豊原大成総務の自坊、西宮市の西福寺では庫裡が倒壊して総務の実父の豊原大潤元総長（八六）をはじめ坊守の幸子さん（六二）、長女で一人娘の真理さん（二八）の一家三人もが犠牲になるという痛ましい惨事となった。通算四度、十二年にわたり総長を務め、新境内地の取得の下地作りや阿弥陀堂の昭和大修復、大谷本廟の無量寿堂造営、宗務総合庁舎の建設など数々の功績を残した名総長の突然の死は宗門内外に大きな衝撃を与えた。松村了昌総長、北條成之宗会議長ら宗門関係者が次々に弔問に訪れ、豊原総務と同じ兵庫教区選出の門徒議員堀静男氏はあまりの惨状を見るに見かね、十九日には姫路からパワーショベル二台と作業員八人を連れて倒壊した庫裡の後片づけを手伝っていた。また、この日は自宅が倒壊して避難所に避難している門徒達も次々と弔問に訪れ、足を負傷したため弔問に行きたくとも行けず、ようやくこの日一時間かけて三キロの道のりを歩いてやって来たおばあさんが本堂に入るなり、「ご院主さん、なんでこんなことに...」と叫び大潤氏らの棺の前に倒れ伏して号泣した=写真【写真は省略】。「一日も早く弔問に来たかったのですが自分も怪我をしたもので...」「本当に優しいご院主さんでし

た」「坊守さんもととても情の深い人で、私達が悩みを相談に行くといつも親身になって相談に乗ってくれ、一緒に泣いてくれました」。涙に途切れがちになりながらも「私達の太陽だった」と慕う大潤氏らを偲び、たった一人取り残された住職の大成総務をもり立てて、もう一度自分達の法城西福寺を復旧するのだと誓っていた

▽神戸別院（土基謙教輪番）が改築中のため、別院と兵庫教区教務所（所長＝土基輪番）は神戸市役所の南、旧アメリカ領事館の跡地にプレハブ二階建ての事務所を建てて宗務を行なっている。観測史上でも希有と言われる震度7の激震が神戸市を襲ったと知った時に宗務所の多くの職員が、改築中の別院と事務所は駄目だろうと思った、という。しかし、奇跡的というか竣工を今年五月に控えていた工事中の別院と事務所は殆ど無傷で残り、事務所は、現在、多くの被災寺院を抱える兵庫教区の災害対策本部として全国各地から寄せられた救援物資の集配所などとして大活躍している。震災発生時、この事務所にいた宿直の高藤昭文氏はその時のもようを次のように語る。「この日もお晨朝のため、午前五時四十分頃には起きていました。顔を洗おうとしたその瞬間に全ての電気が消えて、地面を突き上げるようなもの凄い衝撃を感じました。そして、事務所内のロッカーなどが倒れる音、近くのビルの火災報知器がけたましく鳴る音などが聞こえ出したのです」。この後、高藤氏は事務所を飛び出し、中に残した大切な物を運び出すために三度、四度と事務所内に出入りを繰り返し、他の職員らが出勤して来るのを待った。そして、この日から同氏は事務所に昼夜詰め切りで震災の対応に追われることになる…。最初の頃は水が不足したことが最も困ったというが、現在では本山や各教区から大量の救援物資が届き、これらをどう有効に被災寺院や被災住民に配布するかが大変だという。また、教区内外から「飛んででも応援に行きたい」という電話がたくさん寄せられているそうだが「状況がもう少し落ち着いて全体が把握できるまで待つて頂いています」と言い、土基所長や他の職員とともに、目下の最大の懸案である全体の被害状況の把握に全力をあげている

▽鹿児島をフェリーで出発して丸二日間をかけてやってきた鹿児島別院（佐々木文雄輪番）と鹿児島教区（大八木廣澄教務所長）の救援物資を満載した十トントラックが、教務所まであと1キロという時点で地元警察の指示で物資を下ろしてUターンを命じられた。十九日夜の出来事。鹿児島教区と仏教婦人会の義援金三百万円を携えた教区、別院の職員の平島義仁、熊谷正之の両氏は空路大阪に入り、電車が通じている西宮から徒歩で神戸を目指し、十九日の午後七時半頃に事務所に到着した。トラックとは携帯電話で互いに連絡を取り合いながら進み、「『あと四キロ』との連絡を最後に電話が通じなくなった」と事務所に到着した平島氏らは心配げ。この後、警察署から電話で交通渋滞などのため救援物資を下ろしてトラックは西宮へUターンさせられたことが判明したが、教務所に詰めていた職員らは神戸市役所に駆けつけて、物資が間違いなく保管されているかなどを確認した

▽大阪府の前副知事谷川秀善氏の自坊、尼崎市の万徳寺（谷川正秀住職）も二百年以上の歴史があり、かつては文化財指定の話も出た鐘楼堂と山門が全壊した。本堂は内陣の天井と壁が一部落ちて傾いたほか、後堂も損壊、また、客殿の壁にも亀裂が走り、二階は傾き、危険な状態である。しかし、幸いなことに正秀住職をはじめ寺族には怪我人はなく、復旧した水道水を汲んで内陣の清掃に精を出しており、「夜が明けたら伽藍が崩壊していた。どこから手をつけてよいのかわからないが、本堂だけでも片づけて被災された方々を迎え入れたい」と語っていた。

被災地学生に十万円援助

▽本願寺派の宗門関係学校も続々と兵庫県南部地震の救援に立ち上がっている。先ず、宗門校の雄、龍谷大学（信楽峻麿学長、京都市伏見区）では、宝塚市、西宮市、芦屋市、神戸市などに住み今回の震災で家屋倒壊、半壊、焼失などの被害に遭い生活基盤を失った学生達に見舞金として一人十万円を支給することを決定した。同大事務局の調査によれば被災地に居住する学生の総数は九百八十人。また、同大学では入学試験は日程通りに実施するが、二十九日に実施する地方試験神戸会場については姫路市の私立播磨高校と県立姫路東高校へ変更する

▽京都女子大学・同短期大学部（狩野直■学長、京都市東山区）では「一般入試前期」試験は予定通りに二月一、二の両日に同校で実施するが、今回の震災の影響で十八日の出願締め切りに間に合わなかった受験生には個別に対応し、特別措置を講じている。また、在校生で卒業試験や学年末試験を受けることができなくなった学生達にも至急

連絡を呼び掛けて特別措置で対応。また、住居が倒壊するなどした学生へは大学寮の一部を提供している
▽一方、宗門関係学校二十五学園の連合体、本願寺派学校連合会（理事長＝信楽峻磨龍大学長）も救援に立ち上がった。連合会に所属する睦学園須磨ノ浦女子高校（神戸市須磨区）では礼拝堂や校舎数棟が倒壊するなど被害が出ているが、辛うじて被害を免れた河野記念館には住居が損壊した地域住民百人余りが避難しており、この人達へ救援物資を送った。本山宗務所内で食堂などを経営する開明社（武部昌二支配人）の協力でおにぎり一千個、パン一千三百個、タオル四百本、お茶（缶）一千三百本、ポータブルトイレ十台、カイロ四百五十個、オムツ十箱、ミルク缶などを用意。連合会の事務を担当する学事部の佐々木孝昭賛事、正覚智成賛事、葛谷教順録事が二トントラック、開明社の武部支配人らがおにぎりなどを積んだ保冷車で二十日午後四時に京都市下京区の本山を出発。国道2号、同43号の渋滞の中を縫ってひた走り、翌二十一日午前零時過ぎには今回の災害対策本部が置かれている神戸市中央区の宗派兵庫教区教務所（土基謙教教務所長）に到着。職員らに温かいお茶などを振る舞われて暫し休息を取った後＝写真【写真は省略】、「被災者らの朝食に間に合わせたい」と須磨ノ浦女子高校へ向かって出発して行った。なお、連合会では睦学園と成徳学園（神戸市）を除く同会に所属する二十三の学園へ一口十万円で両校への義援金を募ることを決めた

▽宗派は十九日に兵庫教区へ見舞金一千万円を送った

▽滋賀教区（宮脇康雄教務所長）と高岡教区（龍澤順道教務所長）は十九日、兵庫教区へ各々見舞金三百万円を送ることを決めた。

谷校生徒が義援金活動

●大谷派 宗門校大谷高校（多田孝圓校長）は十八日から被災地への義援金を京都市内の数カ所で募り始めた＝写真【写真は省略】。これは同校生徒会執行部の呼びかけで始まり、野球部などの各クラブやクラスの有志が協力。連日、放課後を待って約五十人の一、二年生がＪＲ京都駅地下街、京都タワービル下、同校付近の今熊野市場、ＪＲ東福寺駅前に繰り出している。一行は募金箱を抱え、手作りの看板を置いて道行く人たちに大声で「救援募金にご協力をお願いします」と訴えていた。なお、人権学習などで交流を続ける韓国学園（京都市東山区）の男女生徒たちも同校から声をかけられてＪＲ京都駅八条口で淨行を続けている。活動は二十八日まで。多田校長は「何か自分たちにできることはないかと生徒自ら立ち上がってくれた。これも本校が行なってきた人間教育の成果の一つだろう。生徒たちを誉めてやりたい」と語っていた

▽神戸の甲南高校に通っていた霊源院大谷暢順連枝。旧友と震災地に住む約三千六百軒の東山淨苑参苑者の被災状況を気にして、連日電話などで連絡をとっている。宗門では大谷光紹法主と親交深く、住吉にある光紹法主、暢順連枝兄弟の家へよく遊びに来ていたという東一影氏（常順寺住職、神戸市東灘区）の安否が心配のよう。同寺は本堂、庫裡ともに倒壊しており、「現地に入れないうし、電話もつながらない」と顔を曇らせていた

▽ＪＲ芦屋駅付近の自宅で地震に直撃された安居院憲美氏（恩長寺住職、滋賀県東浅井郡）。風邪で寝込んでいたそうだが、けがはなく、家屋の被害も少なかったようだ。現在、安居院氏は滋賀県長浜市に住む娘さんの自宅に避難しているという

▽地震の被害調査と対応に追われる災害救援本部（本部長＝岡川秀映参務）。二十三日には本山と大阪教務所の職員らがバイクに乗って現地へ向かった

▽「鉄筋コンクリート造りの庫裡にいて助かったが、激しい揺れで石塔や仏具が倒れた」と地震を振り返る深田英雄宗議（極楽寺住職、大阪市福島区）。屋根も一部損壊したが、神戸と比べて被害は少なかったという。二十三日には伊丹市の被災寺院に出かけて復旧作業に懸命な住職たちを激励、見舞金も手渡したようだ

▽大阪の各別院では大きな被害はなかったようだ。難波別院は二階のガラス二十枚ほどを破損、茨木別院では壁二、三カ所が崩れたほか、内陣金箔が破れた。また、天満別院、八尾別院は油がこぼれたり、灯籠の被害程度だった。

真言

社会福祉基金から二億円

●**高野山** 本紙二十一日付で報道した救援態勢の中で、一部が変更された。宗団が兵庫県南部地震に対する見舞金として御宝号念誦基金から一億円と二千万円をねん出するとなっていたが、正式には社会福祉基金から二億円を取り崩し、一割の二千万円を一般の被災者に寄付、残りの一億八千万円を被害状況を調査した上で宗団の被災した寺院に配る。二千万円についてはすでにNHKを通じて贈っている

▽二十四日に高野山で行なわれた恒例の寒行托鉢は、阪神大震災の被災者のための募金へと趣旨が切り替わった。

朝から金剛峯寺役員、職員らが総出で街頭に繰り出し、被災者への救援を呼び掛けた

▽この托鉢の後、各部長を中心にして職員が四班に分かれ、被災した各寺院へ見舞いのため高野山を出発した。なお、宗団では全国支所および各青年教師に積極的な救援のためのボランティアを呼び掛けている。こうした救援活動のための本部が大阪市北区の太融寺に設置された

▽淡路宗務支所下では、今回の震災で生福寺（若林義導住職、津名郡北淡町富島）が本堂や寺務所が全壊するなど大きな被害を受けた。実際に同寺を訪ねてみると、瓦礫を前にして前住職夫人らが後片付けの最中で、その時の様子をこう語ってくれた。「とにかくものすごく揺れました。揺れがおさまってすぐに飛び出しましたら、すでに寺務所などが全壊していました。もし昼に地震が来たらいてい寺務所にいますので、助からなかったでしょう。本堂が何とか原形だけをとどめていますのは、ご本尊を安置した宮殿が天井まである高いものでしたので、支えになったからだと思います。おかげでご本尊は無事でした」と大変な中にも少しほっとした様子。「でも、昭和からの過去帳が寺務所の瓦礫に埋まっていますので、雨などで濡れないように気をつけ何とか探し出したいです。昼は後片付けのため、境内に車を止めてその中で過ごしています」となお多くの不安を抱え、不自由な生活を続けている。同寺は他にも山門や鐘楼堂が全壊し、土塀も崩れ、墓石のほとんども倒れて、土蔵も傾いた。本堂も形が残っているとはいえ、いつ倒れてもおかしくない状態。すでに業者による撤去作業が始まっている。

東寺・境内で義援金托鉢

▽高野山山内の三宝院・飛鷹全隆住職は、兵庫県南部地震が発生した十七日の午後、東灘区の理性院を見舞った。理性院は付近の火災で類焼。新築の本堂と庫裏を全焼した。飛鷹三宝院住職は二度にわたって同寺を訪ねて、住職を励ましている。続いて十九日は淡路島に渡って震源地の北淡町・生福寺などを見舞っている。生福寺も本堂と庫裏が全壊した。また二十一日、京都・東寺で毎月行なわれている「弘法さん」で托鉢。約十年前から毎月、東寺の境内に立って、弘法さんにお参りする人々に浄財を求めてスリランカに学校を建てるための運動を起こしているが、今回は兵庫南部地震で被災の人々に救済の一助をと早朝から救援の托鉢に立った。三宝院の僧侶十一人が参加し、寄せられた義援金百二十四万四千六十五円をNHK京都放送局へ持参した。

岡田事務長も地震に遭遇

●**大覚寺派** 兵庫県南部地震は死者だけでも五千人（二十四日現在）を超える未曾有の大惨事となった。二十一日付と二十四日付の本紙で既報の通り、同派の末寺の被害も相当なものがある。本山では震災直後から電話等で連絡をとり、被災状況の把握に努めていたが、二十四日から現地へ職員らを派遣した

▽井上紀生前門跡の自坊・立江寺（神戸市兵庫区北山町）は、古い堂宇が倒壊したが、新しい堂宇は持ちこたえた。しかし、堂の中は壁が落ちるなど、かなり傷んでいるという。今回の震災では、同寺のように高台に建っているところは比較的被害が少なく、海岸に近い所で本堂倒壊などの大きな被害があったようだ

▽岡田高功宗務総長は十六日に開かれた嵯峨御流神戸司所の新年祝賀会に出席し、そのあと神戸市中央区のホテルに宿泊、翌朝地震に遭遇した。そのため、ホテルで足止めをくらい、本山へは十八日に戻った。「幸い私はなんともなかったが、周囲はビルが倒壊したり、火災が次々と起こるなど大変な状況でした。本山は今、非常体制で現地に出向いて、被害状況の把握に努めています。市内には本派の寺院だけでなく、お華の先生方も多くおられるので大変心配しています。本山としてできる限りの援助をするつもりです」と話している。

31日に緊急対策会議開く

●**東寺真言宗** 兵庫県南部地震で同派の寺院も多大な被害を受けたため、三十一日に宗務庁で緊急対策会議を開き、適切な援助活動を推し進めていくことになった。二十三日までに情報の入った同派の被害状況は次の通り。神戸市中央区・大龍寺（本堂無事、境内建物損壊）、中央区・寶珠寺（本堂の本尊損壊）、兵庫区・東照寺（本堂半壊、瓦全部落下）、長田区・西代寺（本堂・庫裡とも全壊、木田有岳名誉住職夫人死亡、高木寶瑞住職の居宅が全焼）、長田区・寶塔院（全焼、未確認）、長田区・地藏院（全壊、未確認）、長田区・善心寺（天井が落下）、長田区・延命寺（外壁が崩れ、外が見えるような状態）、長田区・靈山院（ほぼ全壊、柱は残ったが空が見える）、長田区・明照寺（全壊、未確認）、長田区・弘恩寺（屋根が損壊）、長田区・安樂院（墓だけ損壊）、須磨区・厚福寺（本堂屋根瓦と壁が損壊）、垂水区・雅祥院（被害を免れた）、灘区・実相寺（本堂の瓦が全部落下）、北区・聚樂院（本堂と山門の瓦落下）、伊丹市・不動院（ほとんど被害なし）、宝塚市・成就院（ほとんど被害なし）、宝塚市・平林寺（ほとんど被害なし）、宝塚市・了徳密院（ほとんど被害なし）、猪名川町・安樂寺（庫裡と塀の瓦の一部損壊）。

震災で神光院の住職死去

●**醍醐派** 兵庫県南部地震はまれにみる大惨事となったが、兵庫県下の多くの同派寺院、教会も被災に遭った。中でも西宮市上ヶ原五番町・神光院の谷章栄住職は、庫裡の倒壊のため亡くなった。被災に遭って避難している住職もいるようで、同派ではまだ全ての寺院との連絡はとれていないようだ。二十四日午前中までの同派寺院、教会の被災状況は次の通り。兵庫区・宝喜院（本堂・庫裡の屋根瓦落下）、長田区・福照院（本堂倒壊、本尊無事、庫裡の一部損壊、住職は避難中）、灘区・理性院（本堂・庫裡の屋根瓦落下）、灘区・龍王院（燈籠倒壊、他はほとんど異常なし）、灘区・不動院（本堂・庫裡倒壊）、尼崎市・大行院（山門倒壊、庫裡一部崩壊）、西宮市・神光院（庫裡倒壊、谷住職死亡）、垂水区・円山教会（被害なし）、三原郡西淡町・淡路聖天歓喜教会（本堂倒壊）、尼崎市・福德教会（燈籠倒壊）、西宮市・日の本清阿弥陀教会（本堂等の屋根瓦落下）

▽大阪市中央区・報恩院の藤崎信幸住職は二十日、今回特に被害の大きかった長田区へバイクで見舞いに駆けつけた。藤崎住職は同級の友人の藤井昭禅御室派東山寺住職、山田天信醍醐派福照院住職、祝宏友東寺真言宗弘恩寺住職のもとへ片道四時間かけて、水、生野菜、ティッシュペーパーなど生活用品を荷台だけでなく、背中にも背負って運転した。「立ち入り禁止の所も制止を振り切って行きました。救援物資を積んでいたのが見のがしてくれたんだと思います。私はこの日だけでしたが、息子は車で二回、救援物資を運んでいます」と。

広島

救援物資を兵庫教区へ

●**本願寺派** 備後教区（徳本樹界教務所長）は二十日未明、兵庫県南部地震で被害を受けた兵庫教区教務所に救援物資を届けた。また義援金として本山に二百万円を送った。備後教区では十九日の午前中に教区内の全組長へ連絡し、救援物資を備後会館へ届けるように要請した。会館が物資で埋まる中、午後五時には先発隊が出発。続いて同九時半、四トントラックに、ニリットル入りペットボトルの水百六十本、パン五万円分、毛布約二百枚などを山積

みして神戸に向かい、翌二十日午前一時、中央区加納町に仮事務所を構えている兵庫教区教務所に到着した。備後教区では、引き続き教区内に支援を呼びかけていく。

(c) 1995中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)